

# 手をつなぐ医療 —福祉、そして音楽。

松尾クリニック10周年記念講演とコンサートより



在宅医療や患者会活動に熱心に取り組んでいる松尾クリニック（大阪府八尾市）が、開設10周年を祝う記念講演とコンサートを、1995年8月30日、八尾市のプリズムホールで開催した。主に同クリニックの患者が参加したこの催しでは、寝たきりを防ぐために必要な社会システムについての講演と、心の健康保持に有効な音楽の紹介が行われた。

## 寝たきり予防は社会的ケアシステムで

第1部として「21世紀の高齢社会と福祉」をテーマに講演が行われた。講師の阪南中央病院内科医長・岡本祐三氏は、まず、1970年代を境に起こったわが国の高齢化をめぐる大きな変化を以下のとおり指摘した。

### ①高齢の障害者の増加

○生活水準の向上や医療技術の発達などによる脳卒中の死亡率低下 ○高血圧症・心臓病・肝臓病などの慢性疾患の増加 ○国民皆保険・老人福祉法の整備などによる高齢者の受診・入院の急増——などを原因として障害をもって生きる高齢者が増えた。

### ②困難になった家族介護

社会の近代化・工業化による家族単位の縮小、夫を看取る妻や親を看取る子どもの高齢化などのため、家族介護が困難になった。

「高齢者介護は新しい社会問題です。高齢障害者の増加と家族介護が難しくなっている状況のなかで、この問題を解決するには社会的対応が求められています」（岡本氏）

ではどのような対策を講じるべきか。同氏は次に、阪南中央病院（大阪府松原市）が中心となって実践している高齢者ケアシステムについて説明した。

同院は、訪問診察・訪問看護・訪問リハビリなど医療の出前を行うとともに、地域の保健婦やホームヘルパーなどとともに、毎週1回のケース検討会議、月1回の全体会議をもち、保健・医療・福祉の全分野によって築かれたネットワークに基づく高齢者ケアを実施している。岡本氏はスライドを利用して、寝たきりでうつろな表情だったある高齢者が、訪問リハビリや住宅改造によりADLが向上し、車いすで外出するまでになり、これにより家族関係に親密さが戻るなど生活が生き生きとしてくる様子を紹介した。

「高齢者が一度体調を崩すと、坂道を転がり落ちるように状態が悪化すると考えられがちです。しかし、身体機能が自立して生活できるレベルより下がった時点で、素早く適切な援助を集中的に施せば、ある程度は回復します。こうした予防的な高齢者ケアを繰り返せば、高齢者には長生きしてもらえますし、介護力を効率的に生かすことができます」（岡本氏）

さらに同氏は、日本が目指すべき将来像としてデンマークの高齢者ケアの実情に言及する。デンマークのナーシングホームの居室は美しい調度のある個室だ。入居者は毎日きちんと身繕いし、女性は年2回のパーマと毎月1回のセットなども行う。また、入居者がお金をかけてポーカーをすることもある。寝たきりや痴呆を予防するためには、いつも身ぎれいにして、一人の人間としての尊厳を維持し、楽しみのある生活を送ることが必要だと岡本氏は強調する。

デンマークの在宅ケアにおいては、24時間体制のホームヘルプサービスのほか、補助器具の貸与や住宅改造などが無償で行われている。これらは公費で実施されており、補助器具メーカーや建築業者に公費が投入されることで地域の産業が育成されているわけだ。このような事例から、岡本氏は次のように述べて講演を締めくくった。

「“これからの日本の内需構造は福祉に大きく傾斜しなけ

ればならない”と考える経済学者も現れてきており、公的介護保険の導入などによって、日本もデンマークのような高齢者介護システムを整えていくべきでしょう」

## 「名曲は名医」

第2部では「名曲は名医」と題して、松尾クリニック院長の松尾美由起氏、ピアニストの和田則彦氏、放送作家の篠崎博氏による対談とコンサートが行われた。ここでは、音楽の医学的効果を研究している全アメリカ音楽療法協会の報告書に基づき、次のような様々な音楽の効用が紹介された。

### ① ゆうつな気持ちを癒す

自信を喪失して自分の殻に閉じこもっているような時は、明るい曲調の音楽を聞いても心に響かない。これは、暗いところから急に明るいところへ出たとき、眩しすぎて周囲がよく見えない状態に似ている。このような心理状態の時は、静かな曲調から始まり、徐々に力強くなっていく音楽を聞くと心が癒され、元気になっていく。こうした音楽の一つに、ベートーベンの「月光」がある。

### ② 若返りを促す

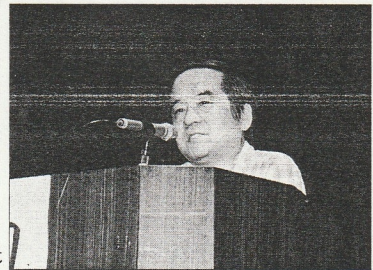
音楽を聞くことは、右脳を働かせ、左脳を休ませることになるのでストレス解消になる。また、生き物は音楽を細胞で聞いているという説がある。例えば、植物にクラシック音楽を聞かせるとすくすく育つという例があり、細胞のリズムに合った前向きな気持ちになる音楽を聞けば、若返りを促してくれることが考えられる。

### ③ 痛みや辛さをやわらげる

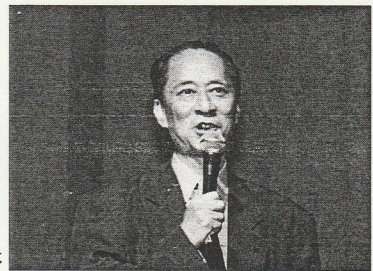
幻想的な美しい音楽は、不安や辛さを覆い隠す、いわゆるマスキング効果がある。このような音楽は、手術前や歯科治療前の不安を抱えている人の心を解きほぐしたり、痛みをやわらげたりする。

### ④ 言葉を超えて心を通わせる

言葉では表せないような軽快さ、楽しさを感じさせる音楽を、言葉ではコミュニケーションがとれない障害児に聞



岡本祐三氏



篠崎 博氏



和田則彦氏



松尾美由起氏

かせるとにっこりと笑い、心を通い合わせることができたという事例がある。人に伝えたくても言葉では表現できない深い思いを表現し得る音楽は、言葉を超えたコミュニケーション手段となる。

医療者として、人間が健やかに生きていく手伝いをするにはどうすればいいか。本講演会では、この問いに答える二つの取り組み——福祉と連携して高齢者をケアすること、そして音楽をとり入れて患者の心身を癒すこと——が紹介された。いま、柔軟な発想でさまざまな分野と手を組む試みが、ケアを必要とする人々を元気にするばかりか、医療の世界をも活性化させているといえよう。